

12月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

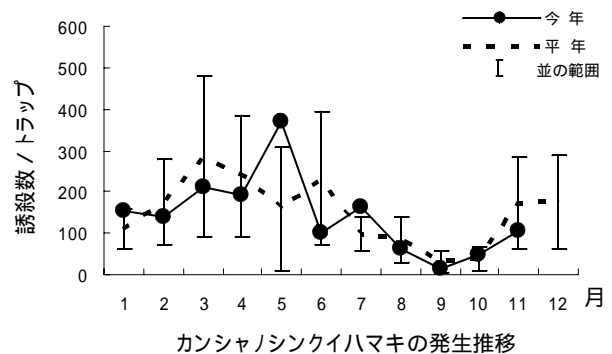
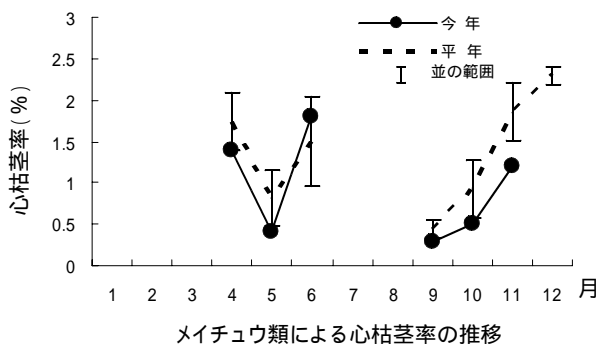
沖縄群島

1 さとうきび

(1)メイチュウ類

発生程度：並
予報の根拠

- a 11月の新植ほ場での心枯茎率は1.2%（平年1.9%）と平年よりやや低かった。
- b 11月のカンチャノシンクイハマキ性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は106頭（前年120頭、平年173頭）と平年並であった。



防除上注意すべき事項

加害による心枯を防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。

野その防除対策について

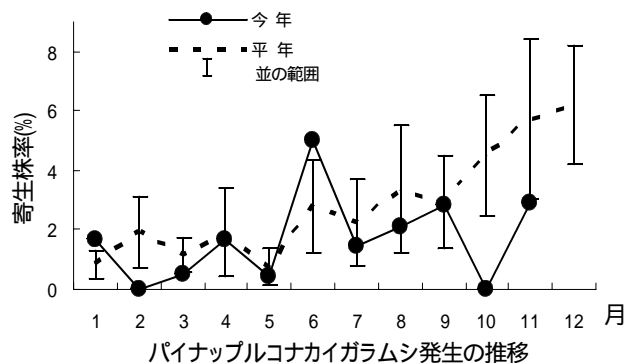
- a 被害は台風で倒伏した収穫前の圃場で多くなる。
- b 今後のブリックス上昇に伴い加害の増大が予想される。
- c 市町村単位で航空防除が実施されたが、例年発生が多い地域では地上防除を併用する。
- d 畜舎や原野等の隣接圃場では被害が多いので重点駆除する。
- e はく葉等を行い、圃場の環境整備に努める。

2 パインアップル

(1)パイナップルコナカイガラムシ

発生程度：やや少
予報の根拠

- a 11月中旬の調査の結果、圃場での寄生株率は2.9%（前年14.2%、平年5.7%）と平年よりやや低かった。



防除上注意すべき事項

本種はパイナップルの地上部全体を加害するとともに、萎ちょう病を媒介する。特に、葉の重なった部分に多く寄生するため、薬剤散布時には各部位に十分かかるように散布する。

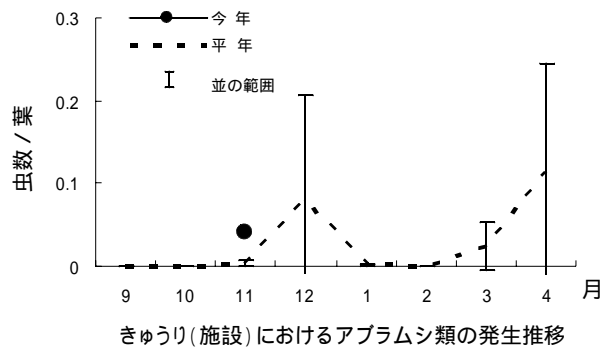
3 きゅうり(施設)

(1) アブラムシ類

発生程度: やや多

予報の根拠

- a 11月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.04頭(前年0頭、平年0.01頭以下)と平年よりやや多かった。
- b 一部ほ場で多発生が見られた。



防除上注意すべき事項

- a 本種はモザイク病を媒介するので飛来侵入を防ぐため、近紫外線除去フィルム、シルバーポリマルチの利用、および入口、天窓、側窓にはシルバー寒冷紗等を張る。
- b 摘葉や残渣物は発生源となることもあるので、ビニールに入れるなどして施設外に持ち出し密閉処分する。
- c アブラムシ類は繁殖力が著しいので、早期防除に努め、植え付け時の粒剤施用と生育期の散布剤を組み合わせた防除に努める。

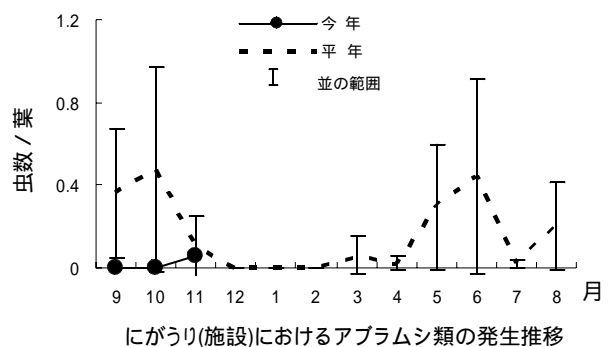
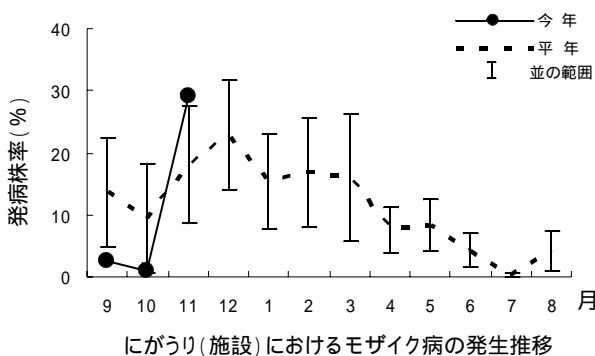
4 にがうり(施設)

(1) モザイク病

発生程度: 多

予報の根拠

- a 10月下旬の調査の結果、発病株率は29.1%(前年0%、平年18.1%)と平年よりやや高かった。
- b アブラムシ類の葉当たり虫数は0.06頭(前年0頭、平年0.09頭)と平年並みであった。



防除上注意すべき事項

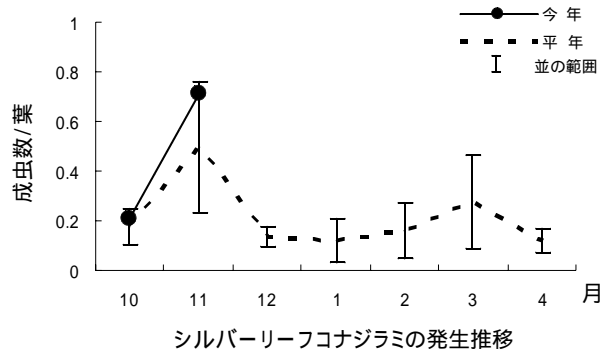
平成16年度病害虫発生予察注意報第3号(平成16年12月1日付け)参照。

5 さやいんげん(平張り)

(1)シルバーリーフコナジラミ

発生程度： 並
 予報の根拠

11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.71頭(前年0.18頭, 平年0.50頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

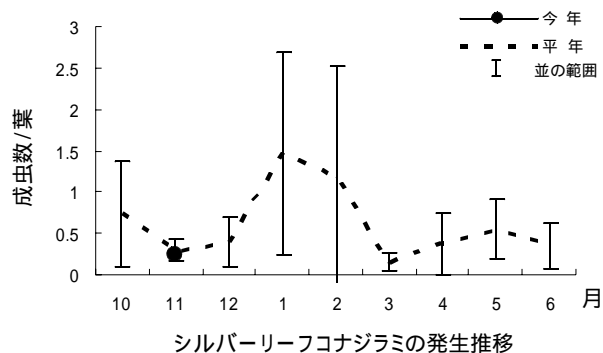
- a 施設内への飛来侵入防止に努め、黄色粘着テープ等による早期発見・早期防除に努める。
- b 摘葉・摘心後の残渣は成虫の発生源となるので、ビニール袋等に入れて施設外に持ち出し処分する。
- c 発生源となる周辺雑草の除去に努める。

6 なす(施設)

(1)シルバーリーフコナジラミ

発生程度： 並
 予報の根拠

11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.25頭(平年0.30頭)と平年並であった。



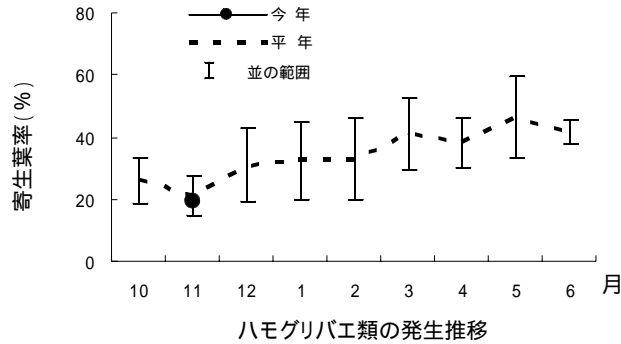
防除上注意すべき事項

- a 育苗中は防除を行い、苗による持込防止に努める。
- b 入口、側窓、天窗はネット資材等を張り、施設内への飛来侵入防止に努める。
- c 黄色粘着テープ等による早期発見・早期防除に努める。
- d 摘葉・摘心後の残渣は成虫の発生源となるので、ビニール袋等に入れて施設外に持ち出し処分する。
- e 発生源となる周辺雑草の除去に努める。

(2) ハモグリバエ類

発生程度：並
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、寄生葉率は20% (平年21%)と平年並であった



防除上注意すべき事項

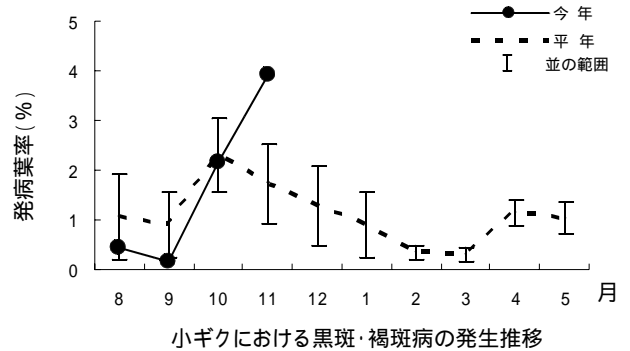
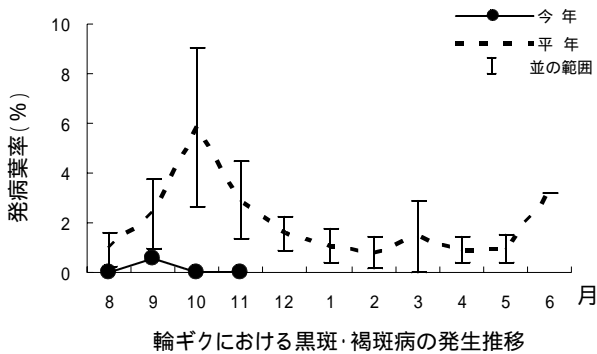
- a 育苗中は防除を行い、苗による持込防止に努める。
- b 入口、側窓、天窗はネット資材等を張り、施設内への飛来侵入防止に努める。
- c 黄色粘着テープ等による早期発見・早期防除に努める。
- d 摘葉・摘心後の残渣は成虫の発生源となるので、ビニール袋等に入れて施設外に持ち出し処分する。
- e 発生源となる周辺雑草の除去に努める。

7 キク(輪ギク、小ギク)

(1) 黒斑・褐斑病

発生程度：やや少(輪ギク)、多(小ギク)
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病葉率は輪ギクで0% (前年0.15%、平年2.91%)と平年よりやや少なく、小ギクで3.92% (前年1.42%、平年1.73%)と平年より多発生であった。



防除上注意すべき事項

- a 発病初期の防除を徹底する。
- b 発病葉は除去し、通風、採光、排水に努める。